

美馬市美馬地区の民間薬調査

民間薬調査班（徳島生薬学会）

川添 和義 ^{*1}	伏谷 秀治 ^{*1}	柏田 良樹 ^{*2}	鎌倉 孝法 ^{*2}	熊 娟 ^{*2}	金 尚永 ^{*2}
田岡 寛之 ^{*2}	谷口 昌聖 ^{*2}	西村 和也 ^{*2}	佐々木久子 ^{*2}	三橋 洋介 ^{*2}	吉田 修平 ^{*2}
岡本 千明 ^{*3}	栗本慎一郎 ^{*3}	篠崎 陽介 ^{*3}	関田 倫彦 ^{*3}	渡邊 典之 ^{*3}	今林 潔 ^{*4}
今林 優佳 ^{*4}	高石 喜久 ^{*2}	水口 和生 ^{*1}			

要旨：徳島県下で伝承されている医薬品（民間薬）調査の一環として、美馬市美馬地区における民間薬調査を行った。戸別訪問によるインタビュー形式で、現在利用している、または過去に利用していた民間薬について、その名称、利用目的、利用方法について尋ねた。その結果、487戸から回答を得て、2,112件の情報を収集することができた。品目は約170種類が確認できた。また、「イシャイラズ」などよばれる民間薬についてその起原を調査した結果、アロエをそのように呼ぶという回答が多くを占めることがわかった。また、この地域では2種類以上のアロエを異なる用途で利用していることもわかった。過去に行った三好市東祖谷地区、美馬市木屋平地区における調査結果と比較しながら美馬地区における民間薬伝承の現状を考察した。

キーワード：民間薬、伝承薬、調査研究、美馬町、イシャイラズ

1. はじめに

いわゆる「口伝」で継承される医薬文化の一つに民間薬があげられる。広義では各地域に伝承される医薬品のことであり、伝承される地域によって非常に特色が見られるのが一般的である。したがって、漢方、アール・ヴェーダなども民間薬を基盤とするものであるが、大きく異なるのは漢方などの伝承医薬（医学）は書物による伝承がなされており、その書物が継承される限り未来永劫にこの情報が残っていくものである。しかし、民間薬は口伝であることから、情報伝承の担い手がいなくなるとその時点で消滅するものであり、各地における医薬文化保護の観点から一刻も早い文書化が求められている。そこで、我々は徳島県における民間薬の利用調査を行ってきた。今回はその一環として美馬市美馬地区の調査を行い、民間薬伝承の状況について若干の知見を得たので報告する。

吉野川北岸、阿讃山地の南に広がる美馬市美馬地区は、かつて美馬郡美馬町と称していた地区であり、平成17年3月1日に美馬郡内の他の地域と合併して美馬市の一地区となった。合併前の平成12年の統計によると、旧美馬町には9,300人強（約2,900世帯）が暮らしており、その3割が65歳以上の高齢者であった¹⁾。この地区は北を香川県と接し、南を吉野川に望む比較的開けた地域にあり、旧美馬郡の中でも脇町に次いで人口が多い。しかし、過疎化・高齢化の急速な進行は多の地域と同様、伝承医薬についても危機的な状況を生み出しており、情報の収集が急務であることには違いない。

これまで本地区における民間薬の調査はほとんどなされたことがなかったことから、今回、戸別訪問により、地域に伝承される民間薬に関する情報の収集を行った。また、平成18年度の三好市東祖谷地区調査（以下、東祖谷調査）²⁾、平成19年度の美馬市木屋平地区調査（以下、木屋平調査）³⁾の結果と比

* 1 徳島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部

* 2 徳島大学大学院薬科学教育部生薬学分野

* 3 徳島大学薬学部生薬学研究室

* 4 徳島大学薬学部薬用植物園

表1 地域別・年齢別の情報収集件数（件）

地域	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計	回答数 (戸)	1戸あたりの 平均回答数	用途 不明	用途不明と回答 した比率 (%)
A	6	5	61	44	84	21	9	230	59	3.9	87	37.8
B	15	5	30	50	105	24	43	272	62	4.4	60	22.1
C	4	3	21	43	45	11	10	137	27	5.1	33	24.1
D	6	12	37	26	74	14	53	222	47	4.7	57	25.7
E	9	9	46	26	39	11	15	155	44	3.5	33	21.3
F	9	25	23	49	39	6	69	220	62	3.5	48	21.8
G	1	17	33	70	120	30	1	272	44	6.2	53	19.5
H	2	0	25	15	22	0	2	66	16	4.1	15	22.7
I	14	12	40	8	5	25	39	143	37	3.9	36	25.2
J	0	8	14	22	32	5	0	81	19	4.3	26	32.1
K	0	6	7	41	36	20	4	114	24	4.8	33	28.9
L	0	1	12	54	86	24	23	200	46	4.3	50	25.0
計	66	103	349	448	687	191	268	2,112				
全回答件数に対する割合 (%)	3.1	4.9	16.5	21.2	32.5	9.0	12.7	-				
回答数 (戸)	23	42	77	101	141	41	62	487				
1戸あたりの平均回答数	2.9	2.5	4.5	4.4	4.9	4.7	4.3	4.3				
用途不明	14	29	98	127	143	42	78	531				
用途不明と回答した比率 (%)	21.2	28.2	28.1	28.3	20.8	22.0	29.1	25.1				

地域表示
 A 境目、竹ノ内周辺 G 明神原、丸山周辺
 B 谷口、八幡周辺 H 吉水、山塚坂周辺
 C 露口周辺 I 横尾、土ヶ久保周辺
 D 荒川、北東原周辺 J 中野、観音、平野周辺
 E 銀杏木周辺 K 川ノ上、立見山周辺
 F 宗重、東宗重周辺 L 切久保、清田周辺

較しながら本地区における民間薬利用の特徴についても論じる。

戸調査は難しかったため、全地区から無作為に調査対象を選び調査した。

2. 調査方法

1) 調査期間

調査は基本的に平成20年8月22日から3日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

2) 調査形態・内容および同定

木屋平調査に準じた。ただし、調査期間中での全

3. 調査結果および考察

1) 調査対象

調査対象は男性が回答したのが116戸（23.8%）、女性は253戸（52.0%）、複数名で回答24戸（14.8%）不明46戸（9.4%）の合計487戸であった。これは当地区全戸数（平成12年調査時）の約17%に相当する。年齢別では40歳未満の方の回答が23戸、40歳代42戸、

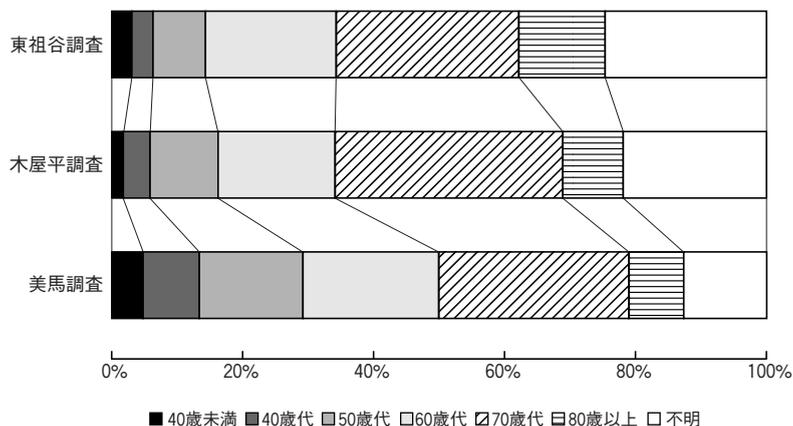


図1 回答者年齢構成比

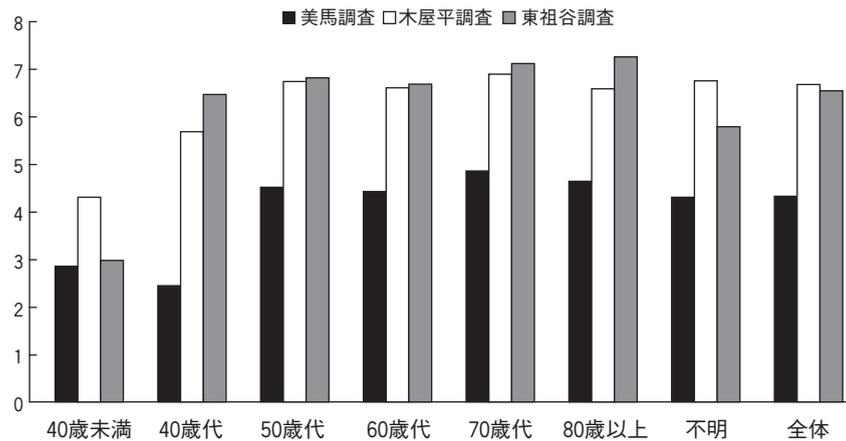


図2 一戸あたりの情報数

50歳代77戸，60歳代101戸，70歳代141戸，80歳以上41戸，不明62戸であった（表1）。本調査では，70歳代からの回答が最も多く，次に60歳代が多いなど，対象の年齢構成は東祖谷調査，木屋平調査と類似するが，本調査では前2回の地区調査より若干年齢層が低くなっており，50歳代以下の回答が比較的多く得られていることがわかる（図1）。また，回答者の出身地は旧美馬町を除くと吉野川対岸の旧貞光町（現つるぎ町），旧穴吹町（現美馬市）が比較的多か

った。

2) 情報の概要

得られた情報は全部で2,112件であり，これらを種類別に見ると，植物由来1,981件，動物由来95件，菌類18件，加工品・その他18件であった。1戸あたりの平均回答数を検討したところ，40歳代以下で2～3件，50歳代以上でも5件足らずであった。これは，以前の調査と比較すると明らかに少ない（図2）。調査地域は100（字名）に及ぶため便宜上，A～Lの

表2 品目別情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が15件以上（件）				b. 情報件数が3～14件	
	情報件数	用途不明	用途不明率(%)		
アロエ	367	60	16.3	10～14件（10品目）	ダイコンソウ，ヒガンバナ，クコ，イタドリ，コハコベ，タラノキ，ヤーコン，カリン，ツワブキ，ミミズ
ドクダミ	326	96	29.4	9～5件（21品目）〔*有効回答が2件以下〕	アケビ*，エビスグサ，サフラン，ナンテン，モモ，オトギリソウ，チャノキ，トウモロコシ，アオジソ，アスナロ，アサガオ，イチジク，センナ，ダイコン，アカジソ，ウツボグサ*，カワラヨモギ，キキョウ*，キハダ，タンポポ*，ニンニク
ヨモギ	193	23	11.9	3～4件（27品目）〔*有効回答が2件以下〕	アカメガシワ*，ザクロ，ナツメ*，ニラ，フキ，ホウセンカ，アカマツ*，アザミ*，イチイ*，ウンシュウミカン*，キリ*，サトイモ，ジャノヒゲ，ショウガ，ショウブ，スイセン，リンゴ*，タマネギ，ツユクサ，トチュウ*，ナメクジ，ハトムギ*，タイワンツナソ，フジ*，ボケ*，ユズ*
センブリ	134	25	18.7		
ゲンノショウコ	106	38	35.8		
ビワ	59	24	40.7		
オオバコ	56	20	35.7		
ユキノシタ	54	7	13.0		
カキノキ	52	32	61.5		
ニホンマムシ	46	5	10.9		
スギナ	26	7	26.9		
ウコン	21	2	9.5		
ウラジロガシ	21	3	14.3		
ニガウリ	20	10	50.0		
アマチャヅル	19	7	36.8		
マダワ	19	10	52.6		
ウメ	17	3	17.6		
ムカデ	17	2	11.8		
キンカン	15	4	26.7		
サルノコシカケ	15	3	20.0		

表3 調査地別有効情報数

美馬調査	情報件数	累積(%)	木屋平調査	情報件数	累積(%)	東祖谷調査	情報件数	累積(%)
アロエ	307	19.4	ドクダミ	102	11.1	ドクダミ	119	9.4
ドクダミ	230	34.0	ニホンマムシ	85	20.4	ゲンノショウコ	108	18.0
ヨモギ	170	44.7	ゲンノショウコ	73	28.4	センブリ	91	25.2
センブリ	109	51.6	センブリ	66	35.6	ニホンマムシ	86	32.0
ゲンノショウコ	68	55.9	ヨモギ	52	41.3	キハダ	73	37.8
ユキノシタ	47	58.9	オオバコ	34	45.0	ヨモギ	59	42.5
ニホンマムシ	41	61.5	ユキノシタ	23	47.5	オトギリソウ	52	46.6
オオバコ	36	63.8	アロエ	23	50.0	アロエ	49	50.5
ビワ	35	66.0	キハダ	20	52.2	オオバコ	37	53.4
カキノキ	20	67.2	タヌキ	20	54.4	ニホンザル	28	55.6
総数	1,581		総数	916		総数	1,262	

12区画に分け比較検討した。なお、各地域に含まれる代表的な字名は表1の余白に示した。ここで、A～Fは河岸付近、G～Iは中間部、J～Lは山間部が中心の地域である。一戸あたりの情報数を見ると、地域による差違はあまり見られないことがわかる。

利用目的がわかっている有効な情報は1,581件で、利用目的が「不明」という回答は、情報件数全体の25.1%にあたる531件であった。これは、年齢、地域によって大きな差は見られなかったが、木屋平調査の21.1%、東祖谷調査の23.6%より多い。

民間薬は全体で203種類確認されたが、そのうち利用法がわかっている有効なもの173種類であった。さらに有効な回答として3回以上出現したものは全確認数の約30%にあたる60種類で(表2)、木屋平調査の35.2%、東祖谷調査の37.0%と比較すると少ないことがわかる。また、有効な情報数の多いものから並べると、木屋平、東祖谷調査では共に上位8位までの合計で全体の50%を超過するのに対して、本調査ではアロエ、ドクダミ、ヨモギ、センブリの上位4種で半数を超過していることから起原

の偏りが著しいことがわかる(表3)。

3) 利用目的・方法について

目的の疾患として最も多かったのが消化器疾患(胃腸疾患、下痢、便秘、胸焼けなど)で、のべ415件(利用目的がわかっている民間薬情報の26.2%、以下同じ)確認された。以下、止血(7.3%)、火傷(12.3%)、外傷(8.5%)、解熱(5.6%)、ハチ・ムカデなどの虫さされ(9.9%)、高血圧など(4.7%)、解毒(4.2%)、泌尿器疾患(3.4%)、風邪・止咳(2.9%)となった。各疾患に用いられる薬材は、消化器疾患でアロエ(同疾患に利用される薬材数の32.8%、以下同じ)、センブリ(25.8%)、ゲンノショウコ(12.0%)、ドクダミ(11.1%)の4種が多く利用されていた。一方、止血ではヨモギが92.0%、火傷ではアロエが89.2%、虫さされでもアロエが73.1%を占めており、目的によっては利用される薬材が極端に偏っているものも少なくなかった。今回の調査で特徴的であったのはウコン(21件)、ニガウリ(20件)、ヤーコン(14件)といった最近になって導入されたとと思われる民間薬が少なからず見られたことであ

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材(件)

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
アロエ	7	15	42	61	91	24	31	271
ドクダミ	2	2	4	8	5	1	4	26
ゲンノショウコ	0	0	0	3	6	0	1	10
センブリ	0	0	1	1	1	0	1	4
その他・不明	2	4	2	1	3	0	1	13
計	11	21	49	74	106	25	38	324
全体の回答数に対する比率(%)	16.7	20.4	14.0	16.5	15.4	13.1	14.2	15.3

る。これらは上の世代から伝承されたものではなく、明らかに書物やメディアにより他の地域から入ってきた民間薬である。

利用方法については、ほとんどが単味での利用で、複方はほとんど見られなかった（複方として利用されていた民間薬は有効な情報の1.0%）。比較的多かったのがドクダミとの併用で、カンゾウ（*Glycyrrhiza* spp.）根との併用も見られた。過去2回の調査でもカンゾウ根との併用が見られているが、これは漢方薬の影響であると思われる。

今回調査で確認された薬材について、標準和名、地方名、利用部位、利用目的、利用方法を表6にまとめた。なお、表6において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク（*）を付した。また、使用部位は主なものを記載した。

6) 「イシャイラズ」調査

これまでの調査と同様に「イシャイラズ」などと呼ばれる民間薬があるかどうかを尋ねた。今回の調査では情報件数の15%がそれに該当していることがわかった。表4に示すように起原の約84%がアロエであり、わずかにドクダミ、ゲンノショウコと続いた。年齢別に見ると「イシャイラズ」というものを知っていると回答したのは40歳代が一番多く、高齢層になると比較的少ないことがわかる。地域別にはあまり大きな差異は見られなかったが、吉野川周辺部での回答で若干多く見られた（表5）。

7) 薬材の名称

東祖谷調査、木屋平調査では方言での回答がかなり見られたが、本調査では方言による回答は少なく、ジュウヤク（ドクダミ）、ミコシグサ（ゲンノショウコ）などを除くとほとんどの場合、標準和名での回答であった。

8) アロエの利用法

今回の調査で最も特徴的であったのがアロエの利用についてである。過去の調査において、民間薬中に出現するアロエは比較的多いものの東祖谷調査、木屋平調査とも全体の3%前後であったのに比べて今回の調査では20%近くも出現している。利用目的は胃腸薬と火傷などの外傷との回答が多い。ただ興味深い点は、胃腸薬と外傷には「異なる種類のアロエ」を利用しているという回答が少なからず見られたことである（アロエを回答したうちの18.5%）。胃腸薬に利用するものは「内科」もしくは「めん（雌）」と呼び、外傷に用いるものを「外科」もしくは「おん（雄）」と呼ぶとの回答が多く見られた。この場合、起源植物はほとんどの場合、前者はキダチアロエ（*Aloe arborescens* Mill.）であった。一方、後者については十分同定ができていないが、外観からは恐らくアロエ・サポナリア（*Aloe saponaria* Haw.）であると思われる。わが国において民間薬に利用されているのは主に露地栽培が容易なキダチアロエであり⁴⁾、その他のアロエは近年になってから海外よ

表5 地域別にみた「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材（件）

	アロエ	ドクダミ	ゲンノ ショウコ	センブリ	その他・ 不明	計	全体の回答 数に対する 比率 (%)
A	36	4	1	0	4	45	19.6
B	34	3	2	0	1	40	14.7
C	20	1	0	0	0	21	15.3
D	33	0	0	0	2	35	15.8
E	28	5	0	2	1	36	23.2
F	28	5	2	1	3	39	17.7
G	25	6	2	0	1	34	12.5
H	13	1	0	0	0	14	21.2
I	19	0	0	0	0	19	13.3
J	8	0	2	0	1	11	13.6
K	7	0	0	0	0	7	6.1
L	20	1	1	1	0	23	11.5
計	271	26	10	4	13	324	

り導入されたものと考えられる。したがって、このようにアロエを区別して利用する方法は近年になって考案された利用法と言える。このように、アロエを区別して利用することはこれまでの調査では確認されていない。恐らく一部の地域で行われていた用法が広がったものと思われるが、どのような情報源からもたらされたものか現時点において明瞭ではなく、今後の研究が待たれる。

4. 総括

美馬市美馬地区は旧脇町の近隣ということもあり、比較的人口の多い地域である。その多くは吉野川沿岸の撫養街道沿いの市街地域に集中しており、この地区は人の移動が山間部に比べて多いと予想される。今回の調査では市街地域と山間部で民間薬の情報が大きく異なると予想された。しかし、1戸あたりの回答数や回答内容などはあまり違いが見られなかった。一方で、「イシャイラズ」などと呼ばれる民間薬を挙げてもらったところ、若年層から比較的多くの回答が得られ、そのほとんどはアロエを指していた。用法によって2種類以上のアロエを区別するという、近年に導入されたと思われる方法で利用されていることも判明した。本地区での民間薬情報の16%以上がアロエで、「イシャイラズ」のほとんどがアロエであったことから考えると、本地域では民間薬を代表するものはアロエであり、逆に言えばそれ以外の民間薬の利用は比較的少ないと考えられる。また、情報件数においてアロエ、ドクダミ、ヨモギ、センブリで全情報の50%以上を占めることや、利用目的が不明のものが多いことから本地区における伝承民間薬の少なさが窺える。これは、市街地域、山間部でほとんど差が見られなかったことから、美馬地区では比較的早い時期に民間薬継承が衰退していったと考えられる。これは、民間薬に関する方言が他地域に比べて著しく少ないことから推察される。一方、アロエの利用法、ヤーコン、ニガウリといった本来その地域になかったものが民間薬として広く利用されていることなどから、この地区の民間薬はその多くが古くからの伝承ではなく、メディアや書物、または他地域からの伝播によるものが少なくないと考えられる。

5. おわりに

民間薬文化の継承は口伝であり、これは、伝承する側が積極的に伝承しない、伝承される側がない、または伝承を受けないとすぐに途絶えてしまう文化であることを意味している。交通の便がよくなり、簡単に高度な医療を受けることができるようになった昨今、民間薬の必要性は低くなり次第に継承されなくなっていくのは常である。これまでの東祖谷、木屋平調査ではこれに拍車をかけるように、過疎により伝承を受ける人がいなくなることによる伝承の断絶が見られた。それに対して今回の調査では、継承を受ける人がある程度住む地域における民間薬の新しい継承形態を見ることができたように思う。つまり、あまり必要性のない民間薬情報は早々に途絶え、代わりにメディアや口コミなどで広がる民間薬で、日常に必要なもののみが定着しているのが現在の形ではないかと考えられる。その点から、アロエは消化器疾患、外傷、火傷といった日頃から遭遇する疾病に対して利用できることから、望ましい民間薬であったのではないかと。

このような伝承のされ方は、確かに文化の継承という観点からすると望まれる形ではないが、逆に考えると、新しい民間薬が若年層にも定着しているということは、いまなお人々が民間薬を必要としている証拠といえる。これだけ医療環境が整った現代社会の中でさえ、民間薬が必要とされているということは、今後も民間薬文化は廃れることなく、取捨選択されながら色形を変えて継承されていくことを示唆するものである。実際に、現在のハーブやアロマセラピーなどのブームはその現れの一つと言える。そういった意味で、今回の調査結果は、今後の民間薬文化に明るさを与えたと言ってもいいのではないかと考えている。

文献

- 1) 平成12年国勢調査，総務局統計局。
- 2) 徳島生薬学会（2007）：『阿波学会紀要第53号 三好市「旧東祖谷山村」総合学術調査報告』，阿波学会・徳島県立図書館 p87。
- 3) 徳島生薬学会（2008）：『阿波学会紀要第54号 美馬市木屋平総合学術調査報告』，阿波学会・徳島県立図書館 p101。
- 4) 木村康一，木村孟淳：『原色日本薬用植物図鑑』，保育社 p234。

表 6

植物			
		インドセンダン*	〔樹皮〕 虫下し
アオキ*	〔葉〕 膿を出す 焼いて揉んで患部に貼る	ウコン	〔根茎〕 肝疾患, 糖尿病, 胃腸薬 乾燥して粉を飲む
アオジソ オオバ	〔葉〕 浮腫*, 解毒* オオバコと配合	ウツボグサ タワラグサ	〔全草〕 解熱*, 止痢*
アカジソ チソ, オオバ	〔葉〕 血流改善* 酢漬にする	ウメ アオウメ	〔果実〕 胃腸薬, 血流改善 エキスにする 黒酢と砂糖で煮る
アカマツ	〔葉〕 歯痛* 噛む	ウラジロガシ カシ シラガシ ウラジロ	〔葉〕 結石, 利尿, 腎臓病
アケビ	〔果実, 茎〕 腹痛*, 目薬* 種ごと食用	ウンシュウミカン ミカン	〔果皮〕 皮膚疾患 浴用
アサガオ	〔葉, 花〕 虫さされ, 鎮痛* 塩で揉んで汁を付ける	エビスグサ ハブチャ ドクケシ	〔葉, 全草〕 止血*, 食あたり* 揉んで汁を患部に付ける
アジサイ*	〔花〕 解熱	オオバコ	〔葉〕 風邪, 鎮咳, 解熱, 解毒, 打撲, 外傷 煎じる, 火で炙って患部に貼る
アスナロ アスナロ	〔葉〕 肝疾患 煎じる	オクラ*	〔果実〕 血流改善
アセビ*	〔葉〕 農薬 絞った液を使う	オトギリソウ オトギリス	〔全草〕 解熱*, 腹痛*
アマチャヅル アマチャ	〔全草〕 鎮痛, 糖尿病* 茶料, 煎じる	カキドオシ*	〔葉〕 糖尿病
アロエ イシャイラズ ヒダチアロエ オニアロエ	〔葉肉〕 虫さされ, 火傷, 外傷, 胃薬 汁を患部に塗る, 生のまま飲む	カキノキ カキノハ	〔葉, 果実〕 高血圧, アトピー, ハゼ負け* 茶料, 浴用, 未熟果実の汁を塗る
イタドリ イタンボ	〔根〕 風邪, 糖尿病 炒めて食べる, 塩漬け	カタバミ*	〔全草〕 虫さされ 生を揉んで使う
イチイ アララギ	〔葉〕 肝疾患* 茶料	カニクサ*	〔葉〕 外傷 黒焼きにする
イチジク	〔葉〕 婦人病, 神経痛* 浴用	カリン	〔果実〕 止咳, のどの不快感
イチヨウ*	〔葉〕 血流改善	カワラケツメイ* ハマチャ	〔全草〕 高血圧 煎じる
イネ* モチゴメ	〔種子〕 蜂刺され 噛むまたは叩いて患部に貼る	カワラヨモギ カワヨゴミ	〔全草〕 肝疾患 煎じる

* 極端に情報数の少ない民間薬または利用目的

表 6 (続き 1)

カンゾウ*	〔根茎〕 便秘 ドクダミと混ぜて煎じる	サフラン	〔花〕 解熱，肝疾患* 湯をかける
キキョウ	〔根〕 去痰*，解熱*	シャクヤク*	〔根〕 足の痙攣
キク*	〔花〕 止痒	ジャノヒゲ リュウノヒゲ タマリユウ	〔根，果実〕 解熱*，高血圧*
キダチアロエ イシャイラズ アロエ	〔葉〕 虫さされ，鎮痛* 葉肉を患部に貼る	シュロ*	〔果実〕 高血圧
キハダ	〔種皮〕 健胃	ショウガ	〔根茎〕 喉の疾患，腹痛* 煎じる，すり下ろして飲む
キビ* コキビ	〔種子〕 肝疾患	ショウブ	血流改善* 浴用
キュウリ*	〔樹液〕 心疾患 茎から出る樹液を使う	スイセン	〔鱗茎〕 解熱*，炎症* すり下ろす
キンカン	〔果実〕 風邪，喉の疾患 砂糖と煮詰める，焼酎に漬ける	スイバ* スイスイ	〔根〕 止痢
キンセンカ*	〔花〕 胃薬 白花を使う	スギ*	〔樹脂〕 あかぎれ 樹脂を患部にすり込む
クコ	〔葉，果実，茎〕 高血圧*，解熱* 酒に漬ける	スギナ マツナ ツクシノオヤ ツクシ	〔全草〕 利尿，糖尿，高血圧，花粉症 茶にする，煎じる
クチナシ*	〔果実〕 解熱 砕いて使う	スベリヒユ* スベルブイ	〔全草〕 肝疾患 食用
ケール*	〔葉〕 便秘 青汁にする	セイタカアワダチソウ*	〔全草〕 アトピー 干して浴用
ゲンノショウコ ミコシグサ オミコシグサ	〔全草〕 胃腸薬，風邪，解熱，高血圧	セリ*	〔全草〕 胃腸薬
コハコベ	〔葉〕 解熱，催乳*，歯周病* 塩で揉んで使う	センダン* センダ	〔果実〕 腹薬
ゴボウ*	〔根〕 強壯	センナ	〔葉〕 便秘 茶料
サクラ* サクラランボ	〔花〕 解熱 湯に入れて飲む	センブリ	〔全草〕 胃腸薬，腹痛，解熱，胸焼け，胃疾患 振り出す，茶にする
ザクロ	〔果皮，根皮〕 整腸，解熱*	ソテツ*	〔葉〕 止血 葉の付け根にある綿毛を患部に貼る
ササ*	〔葉〕 ウシの胃薬	ソバ* ソバチャ	〔種子〕 血流改善 茶にする
サトイモ ズイキ	〔地下部，葉〕 催乳*，糖尿*		

表6 (続き2)

ダイコン	〔根〕 止咳, しもやけ* すり下ろす, 輪切りにして焼いて エキスにする	トチバニンジン* ケニンジン	〔根茎〕 解熱
ダイコンソウ	〔地上部〕 解熱, 腎疾患, 胃腸薬	トチュウ	〔葉〕 高血圧 茶料
ダイズ* クロダイズ	〔種子〕 高血圧 炒って湯につける	ナス*	〔へた〕 菌茎の疾患 へたを炒って粉にして塩と混ぜる
タイワンツナソ モロヘイヤ	〔葉〕 血流改善*, 利尿* 茶料	ナタマメ*	〔果実〕 アトピー 茶料
タマネギ	〔鱗茎〕 不眠*, 血流改善* 切って枕元に置く	ナツメ	〔果実, 枝〕 風邪*, 神経痛*
タラノキ タロノキ タロウノカワ タラノメ	〔樹皮, 根〕 糖尿病, 高血圧*	ナンテン	〔葉, 果実〕 腹痛, 食あたり, 止咳 塩で揉んで汁を搾る, 実には蜂蜜 漬け
タンポポ	〔根, 葉〕 胃腸薬 茶料, 食用	ニガウリ ゴーヤ	〔果実〕 糖尿病 茶にする, 食用
チャノキ チャカス チャ	〔葉〕 ムカデ・蜂さされ 茶殻をしめらせて患部に貼る	ニガキ*	〔樹皮〕 胃腸薬
チョウセンアサガオ* ギバソウ	〔種子〕 風邪 3 - 4粒飲む	ニホンカボチャ* カボチャ	〔種子〕 糖尿病
ツタ ツタカズラ	〔根〕 股関節の熱取り	ニラ	〔葉〕 止痢, 虫さされ* 煮汁を使ひ, 汁を外用
ツツラフジ* ツツラカズラ	〔莖〕 神経痛	ニワトコ*	打ち身 ホネツギグサ塩で揉んで貼る
ツククサ カマツカ	〔全草〕 糖尿病* 陰干しして煎じる	ニンニク	〔塊茎〕 滋養強壯 すり下ろす
ツルニンジン*	〔根〕 胃薬	ネギ*	〔葉〕 喉の疾患 刻んで番茶に入れる
ツワブキ ヤマブキ ツバブキ	〔葉〕 化膿, 鎮痛 汁を塗る, 塩で揉んで患部に湿布	ネズミモチ*	高血圧 酒に漬ける
トウガラシ*	〔果実〕 菊の除虫 焼酎に漬ける	ハッカ*	〔葉〕 外傷 患部にすり込む
トウモロコシ トウモロコシノケ トウキビ	〔花柱 (毛)〕 腎疾患, 浮腫, 利尿	ハッサク*	〔果実〕 胃薬 甘草と煎じる
ドクダミ ジュウヤク	〔全草〕 利尿, 解熱, 外傷, 胃腸薬, 便秘, 化膿, 解毒 煎じる, 揉んで患部に貼る	ハトムギ	〔果実〕 浮腫*
		ハンゲシヨウ*	〔全草〕 馬の疲労回復

表 6 (続き 3)

ヒガンバナ マンジュシヤゲ マンジサゲ	〔鱗茎〕 足の浮腫，解熱，鎮痛 すり下ろして患部に貼る	ヤマブドウ*	〔茎〕 花粉症
ヒトツバ*	〔葉〕 糖尿病，鎮痛	ユキノシタ	〔葉〕 中耳炎，耳痛，腫れもの，火傷，心疾患* 揉んで汁を点耳，火で炙って練る
ヒナタイノコツチ*	〔根〕 膝の痛み	ユズ	〔果実〕 神経痛* 浴用
ビワ	〔葉〕 解熱，鎮痛，皮膚疾患，高血圧，肝疾患 茶料，湿布，浴用	ユリ*	〔根〕 扁桃腺炎 すり下ろす
フキ フキノトウ	〔葉，茎〕 止血，風邪* 汁を塗る，食用	ヨモギ	〔葉〕 止血，外傷，高血圧 揉んで患部に貼る，食用
フジ フジカズラ	ガン*	ラッキョウ*	〔鱗茎〕 心疾患 酢漬け
フユイチゴ* カンイチゴ	〔葉〕 解熱	リンドウ*	〔全草〕 利尿
ヘビイチゴ*	〔全草〕 虫さされ，乾燥肌		
ハウセンカ シロハウセンカ	〔花（白）〕 虫さされ 白花を焼酎に漬ける		
ボケ	〔果実〕 心疾患*		
マグワ クワ	〔葉〕 高血圧，肝疾患*		
マタタビ	〔果実〕 関節痛，冷え性* 焼酎漬け		
マツ*	〔葉〕 切り傷 揉んで擦る		
ミョウガ*	〔花〕 風邪，高血圧		
メギ* コトリトマラズ	〔全草〕 心疾患		
モッコク*	〔葉〕 鼻炎，肝疾患		
モモ	〔葉〕 湿疹，汗疹* 浴用		
ヤーコン	〔根，葉〕 糖尿病，血流改善，肝疾患		
ヤマゴボウ*	利尿		
ヤマシャクヤク*	〔根〕 風邪		
			動物
		イセエビ*	〔殻〕 麻疹
		イヌ*	冷え性
		ウシ*	〔肝臓〕 貧血 生食
		カタツムリ* デンデンムシ	疳の虫 黒焼き
		スイギュウ*	〔角〕 麻疹 ミミズ，キンカンの実と煎じて発疹を出す
		スズメバチ* スズメバチノス	〔巣〕 腎結石
		セミ*	腫れもの 幼虫の腹を割いて患部に貼る
		ナメクジ	喘息*，腫れ* 焼いて飲む，砂糖をかけて患部に貼る
		ニホンマムシ ハメ ハメシュ	〔全体，皮〕 強壯，強精，外傷，化膿 酒に漬ける，黒焼き
		ハチ* ハチノコ	〔幼虫，巣〕 耳鳴り，腎疾患
		ヒル*	腫れ

表6 (続き4)

ミミズ	解熱, 風邪, 耳だれ* 煎じる (キンカンの実と), 食べる, 患部の上を這わす
ムカデ	ムカデの咬傷, 火傷 油に漬ける
メジロ*	結核 燻製にする
ヤギ*	腎疾患
鶏卵*	外傷
人尿* オシッコ	蜂・ムカデ刺され*

菌類

サルノコシカケ コバイレイシ	[菌体] ガン, 利尿*, 肝疾患*
-------------------	-----------------------

加工品

コンニャク*	止痒 温めて使う
タバコ*	蛇よけ 巣穴に入れる
小麦粉* メリケンコ	湿布薬, 足の腫れ 酢と合わせて練って貼る
焼酎*	火傷
醤油*	火傷
清酒* サケ	火傷
竹瀝* タケノアブラ	解熱, ガン
馬油*	火傷
梅干*	解熱, 鎮痛
梅酢*	足の浮腫